

1.洪水の概要

非常に強い台風6号は東北地方の太平洋沿岸を北上して、7月11日13時に岩手県にもっとも近づいた。この台風の接近と、東北地方に停滞していた梅雨前線の活発化の影響で、7月9日夕方から雨が降り始め、その後7月11日の夜まで、岩手県ほぼ全域で大雨となり、多いところでは1時間に35mmの雨を観測し、総降水量220mmを越える大雨となった。

北上川流域における2日間の流域平均雨量は、盛岡市の明治橋観測所上流で147mm、一関市の狐禅寺観測所上流で158mmを観測した。また代表地点における総降水量は松尾で109mm、盛岡で193mm、早池峰で206mm、水沢で176mm、衣川で228mm、一関で205mmを観測した。

水位については、北上川の基準地点である一関市の狐禅寺水位観測所において、平成14年7月12日0時に最高水位13.51mを観測し、昭和22年のカスリン台風(16.89m)、昭和23年アイオン台風(14.89m)に次ぐ戦後3番目となる大規模な洪水となった。

この洪水による主な被害は、死者2名、重軽傷者8名、全壊・半壊・床上・床下浸水家屋が3677世帯、農地冠水7042ha、避難者数約16000人となり、岩手県各地に甚大な災害をもたらした。

川崎村門崎地区陸中門崎駅付近



東山町松川地区浸水状況

北上川流域図と出水状況

